

もの言う牧師のエッセー 第220話

「ウォルマートの落日」

1月15日、世界最大のスーパーマーケットチェーンであり、売上額で世界最大の企業である米国のウォルマート・ストアーズが、269店舗（うち米国内154店）を閉鎖、1万6千人（米国内1万人）を削減すると発表。昨年12月の米小売売上高が前月比0.1%減となり、通年の売上高の伸び率は2.1%にとどまり、前年の3.9%を下回るなど年間の伸び率としては、景気後退が終了した2009年以降最小となるパツとしない景気に加え、ネット通販へのシフトが加速し、小売業者にとって厳しかったこの1年を象徴する出来事となった。これを受けて同社株価は15日の取引で約2%安の61.97ドルまで下落、過去1年では29%近く下げた。

消費者に人気の“1ドルショップ”に対抗するために、同社が2011年に鳴り物入りで始めた、便利な場所に店舗を構えた小型店舗「ウォルマート・エクスプレス」も全くの不発に終わり102店全店が閉鎖。ネット通販のための電子商取引もいよいよ利益も株価も落ち込み、いっぽうでeコマース大手のアマゾン、株式時価総額において昨年ウォルマートを初めて越え、10月現在で700億ドル上回り、株価は70%上昇。市場は大型店舗によるディスカウントしか脳のないウォルマートを時代遅れと見なし始めた。

今回の店舗閉鎖について、「活力を保ち、将来に備えるために必要」などと同社のダグ・マクミロン最高経営責任者（CEO）は前向きなコメントをしているが、投資家の間にはさらなるリストラを期待する声もあり、小売業のコンサルティング・調査会社カスタマー・グロース・パートナーズのクレイグ・ジョンソン社長はウォルマートの決定について「後手に回っている」と手厳しい。そもそもウォルマートは、海外では大量の店舗を閉鎖してきたものの、米国では業績不振の店舗を1年当たり数店閉鎖するだけだっただけに今回の対応は異例中の異例だ。聖書は、

「あなたは人をちりに帰らせて言われます。『人の子らよ、帰れ。』まことに、あなたの目には、千年も、きのうのように過ぎ去り、夜回りのひとときのように。あなたが人を押し流すと、彼らは、眠りにおちます。朝、彼らは移ろう草のようです。朝は、花を咲かせているが、また移ろい、夕べには、しおれて枯れます。」

詩篇90篇3-6節、

と人の栄枯盛衰を神の目線で述べているが至言である。およそ人の営みほどアテにならぬものはない。日本でも現在、ユニクロやヤマダ電機が苦戦中だ。目先の利益や勢いに目を奪われるのではな

く、まず永遠を支配される神を恐れることから始めよう。そうすれば、この激動の時代にまず何をすべきか示されよう。

2016-2-10

